

基隆市の諸問題と未来の基隆を作る建築

Keelung City's Issues and the Architecture that Shapes the Future of Keelung

佐藤信治¹, ○菅原大輝²Shinji Sato¹, * Daiki Sugawara²

Keelung currently faces many problems, including empty containers, declining port functions, population decline, dependence on tourism, and stagnant local economies. While the individual problems are not yet serious, many of the issues are closely interrelated, and there is still room for improvement. We propose a new form for Keelung that solves these problems.

1. はじめに

基隆には古くから、交易港としての役割を持ち、台湾全土に貢献してきた。現在では、台北や他港などの需要や、搬入のしやすさから交易港としての需要が年々減少傾向にある。基隆では現在、フェリー港などを活用し、観光都市へのまちづくりを少しずつ進めている。

2. 計画背景

現在基隆では、空コンテナ、港湾機能の低下、人口減少、観光依存、地域経済の停滞など、多くの問題を抱えている。個々の問題としてまだ深刻ではないが、多くの問題同士が密接に関係し、改善の余地を残したまま現在に至っている。この問題を解決し、新しい基隆の形を提案する。

3. 基本計画

3-1対象となる人

国内外観光客、近隣住民新たなフェリー港や鉄道によって、現在台北と海外からのアクセスは確保されており、観光において台北に劣るため観光客が流れてしまう。観光客の滞在期間を長くし、観光としての需要を上げること。加えて近隣住民へのメリットを強化することで、訪れた観光客が住みたいと思う街への助力としたい。

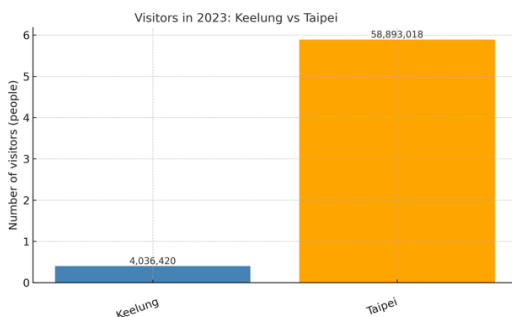


Figure1. Comparison of tourist numbers between Keelung and Taipei.

3-2主要機能

商業、観光、ホテル、複合劇場（オペラハウス）、（水族館）基隆には観光用ホテルがほとんどないことがわかった。その理由として、基隆の観光主要部分（滞在時間2～3時間）を堪能した観光客は九份や台北での観光を楽しみ、台北のホテルに泊まる。そのため、基隆の地域経済は停滞している。このことからホテル、商業施設を作ることで、住まうホテルを構想している。

基隆は港を中心に発展してきたため、現在ランドマークとなる建築があまりない。そのため観光都市に移行している背景からも、ランドマークとなる建築が必要だと考えた。周辺には複合劇場などもなく、フェリーでのコンサートツアーでの客足と、長期的な経済効果があると考えた。

台湾には、大きな水族館が2～3つしかないことが、現地住民の取材によってわかった。国立海洋生物博物館が南北に一つずつと、日本が誇る横浜八景島が2020年桃園市にオープンした Xpark である。台湾の水族館の需要と、ランドマーク、海洋活用として視野に入れている。

3-3想定人数

6000人～1万人 現在の構想段階では主要機能をどこまで取り入れるか決定していないため断定はできないが、ホテル、複合劇場、商業とした場合、概ね上記の想定人数である。

3-4想定稼働日数

ホテル、商業:全日観光、複合劇場:変動あり台湾では降水量が多いため、室内での稼働が主になるが、海洋レクリエーションや、観光では免れられないため気候変動に適応する形を取る。複合劇場ではオペラ、コンサート、ミュージカルなど多用途にわたる活用を考えているが、変動は考えられる。

1: 日大理工・教員・海建 Department of Oceanic Architecture Engineering, College of Science Technology, Nihon University.

2: 日大理工・学部・海建 Department of Oceanic Architecture Engineering, College of Science Technology, Nihon University.

3-5配置

基隆は図2でも示すように、9つの機能を持った港を有している。表記載事項上から、「コンテナ港」「バルク貨物港」「旅客・貨物ターミナル」「公用港(湾岸警備隊)」「軍用港」「漁港エリア」「物流業務エリア」「工業エリア」「レジャー・レクリエーションエリア」となっている。フェリー港は新しくできたものの、この湾の1割にも満たない大きさになっている。レジャー施設もあることから、そこへのアクセ

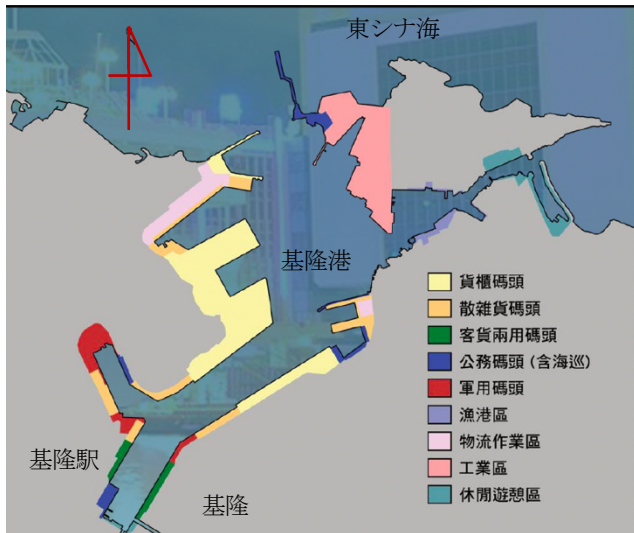


Figure2.Nine Roles of Keelung Port [1]

スも踏まえた建設を考えている。

図3では、基隆へのアクセスと建設予定地を示している。3つの路線とも、中心に向かって伸びているため、建設予定地はその中心となる場所を考えている。現地の人からは、歩道が狭いという問題も取り上げられているが、今後建築を通し歩道の見直しを考慮したうえで、将来まちづくりとしての中心になるための設計とし、観光エリアの中心となる建築を建設する。

4. 参考文献

[1]基隆港 Wikipedia

<https://zh.wikipedia.org/zh-tw/%E5%9F%BA%E9%9A%86%E6%B8%AF>

[2]Google map

https://www.google.co.jp/maps/search/%E5%8F%B0%E6%B9%BE%E3%80%80%E6%B0%B4%E6%97%8F%E9%A4%A8/@25.1403956,121.7517009,14.8z/data=!5m1!1e2?entry=ttu&g_ep=EgoyMDI1MDkyMS4wIKXMDSoASAFQAw%3D%3D



Figure3.Access to Keelung and planned construction [2]